

ホワイトクレスト渡部氏の日本海航海 2006

ホワイトクレスト渡部氏より次のような寄稿がありました。

この度の日本海、反時計回りクルージングについて簡単な記録を残したく、書いて見ました
函館より氷見までは私は乗っていないので、友人に記録を依頼したので何かの参考までに
記載します。

まず初めに

葉山マリーナの「JACKY」が九州一周のクルージングに出掛けるのに乗せて頂いたのが2000年の夏
それ以降「枯野」「ホワイトクレスト」も含み、小笠原、函館、五島列島、伊豆諸島や小豆島
駿河湾と毎年のクルージングに参加してきました

この間、ハウステンボス カップでの優勝、駿河湾沖の竜巻、小笠原帰りの台風、関門の7ノットの
追い潮機走、等 色々と経験を重ねて、多くの親切な人達とめぐり会えた事は素晴らしい事でした
後は残った「日本海」を走ろうとの言う事で今回のクルージングになりました

平均年齢67歳、体力(私、渡部はダメになりましたが)気力、知恵と酒を満載にして、つまみ用の
つり道具も積み7月13日に葉山港を出港し22日函館、同日に出港して、いよいよ

日本海に入りました。全航程2000マイル以上でその三分の二が逆潮と言うクルージングの
始まりです

7月22日、午後11時 3年前にもお世話になった函館赤煉瓦の金森倉庫前を離岸して津軽海に
出る。行き交う船も少なく寒い、葉山を出る時に26度だった水温は19度である

05. 00竜飛岬を回りいよいよ日本海を南下する、次第に北風が強くなり25ノットのクォーター
順調に帆走し16. 20に予定通り「能代港」に入港。長大な防波堤に囲まれて右側に発電所
左奥に漁港があり、その一隅に泊地を得た。大きくて解かり易い港で物珍しく集まって来る人達は
皆親切。水、燃料、民宿、の手配を進んで手伝ってくれる。民宿は繫留場所から100M足らず
新築、エアコン着き、綺麗なトイレに乾燥機着き洗濯機も、快適な宿である。

7月24日 06, 40分に静かな能代港を出る、相変わらず低い雲、視界の悪さに加えて南西の
真上り、牡鹿半島を迂回するのに潮も悪く時間が掛かる 半島の大きさを改めて実感する

16, 40分に本荘港に入港 本荘高校のヨット部が湾内で練習していた、ここのヨット部は
相当に強いようで今年の冬に葉山に合宿に来るそうです

港は突堤が三重になって入るのに少々複雑。マリーナ施設は立派でサービスもまずまず
だが立地条件が悪く料金も高い、公共の温泉施設まで歩いて10分。タクシーを呼ばなければ
買い物も夕食も出来ない。しかし、ここの岩牡蠣は最高。

7月25日、本荘マリーナを07, 20分に出港、山形の鼠ヶ関マリーナを目指す。相変わらずの
曇り空で弱い南西の風、機帆走で走るも逆潮1, 5ノット。夏ではあるがビールの注文が少なく
スープやコーヒーとか温かい飲み物が好評。

17. 00分鼠ヶ関マリーナに入港、火曜日(休港日)にも拘らず給水、給油の手配をして頂き
繫留料も安い。歩いて五分の民宿「咲き」に泊まる。設備、食事、サービス、値段、全て最高
境港までで最も良い宿、全体的に南下して来るに連れてサービスも価格も悪くなるようだ

7月26日、06. 00分に鼠ヶ関マリーナを出港、佐渡の赤泊を目指す。

マリーナで受けた指示通り定置網を避ける為、大きく迂回して鼠ヶ関の灯台と粟島の南端を
結ぶ線が今日のコースだ。このあたりは朝方は東の風、昼晴れば北に変わり曇ると南が吹く
と地元の漁師さんが教えてくれたが、残念ながら曇りで南西の風、逆潮1ノットである
粟島に近づくと海の色が緑から青に変わって来た、粟島を越えると綺麗な黒潮に変わる
まさに対馬暖流の真っ只中を実感する。この時期漁船は殆ど見えない、フェリーや本船が
たまに眼に入る程度。赤泊港に17. 00入港、漁協前に舫う。

ここ赤泊でも地元の皆様にとっても親切にして頂きました。

7月27日。 船中仮眠して26日の午後10, 30分に赤泊を出港する

目指す富山公共マリーナ、海竜マリーナパークまで約95マイル、15時間の予定だ

ここも定置網が多く大きく迂回し沖に出る、二人一組の二時間ワッチの明け方激しい雷雨に会う

これが梅雨明けの兆候か？ほぼ予定通り13. 30分にマリーナに到着。連絡しておいた地元の

荒井さんご夫妻の出迎えを受ける(荒井さんは中大ヨット部OB 73歳)

この港の入り口は、とてつもない大きな定置網があり火力発電所の二本の煙突が目標だが

良く調べて気を付けなければ危険、しかし中は広く施設も良い、ヨットも数多く繋留されていた

ここより、私 渡部も同乗し簡単なメールを携帯より送付しましたが、第二レグ終わりの境港までで

特に記載する事は、和倉温泉にはポンツーン着きの旅館がある、能登島の裏の西岸に葉山とも

縁のある平田さんのヨット「マーサ」が上架されていた、羽咋の港は良好である、小浜の港は原発の

関係か設備が良い、境港には北朝鮮の貨物船が沢山いて中古の自転車や冷蔵庫を積んでいた

8月17日に集合して18日より第三レグ、境港より隠岐の島に寄り山口から関門を越えて姫島から

小豆島まで、また私(渡部)も乗る事にしました。海上より続きは簡単に報告させていただきます。



隠岐 島前(ドウゼン)は三つの島から(海士島、西の島、知夫島)なっています。島間の水路は静かですが、出た途端に台風余波の日本海。

8月20日、台風一過の好天の中、06.00 菱浦港を出港して 70 マイル先の温泉津港を目指す。残波は

高いが風向に恵まれスピランにて日御崎を通過。18.20 に石見銀山で名高い北前船の寄港地

温泉津港(ユノツ)に到着・1300 年前から湧出したと言う湯はクルージングの疲れを取ってくれます。

重要伝統的建造物群保存地区として特色ある歴史的町並みは一見の価値があります。

8月21日 晴れ 06.35 ゆのつ港を出港し萩の先の仙崎を目指しています。

温泉津港を出港して順調に機帆走していたら、10 畳以上ありそうなレジャーシートに乗り上げる、

色がブルーで少し沈んでいて見えない。シャフトからペラまで一瞬で巻かれる。近くを通った漁船

に助けを依頼、萩の港に曳航され、セミプロの様な漁師 2 名で潜り取るのに 1 時間を要す 2 時間の

ロスで 20.10 に仙崎入港(仙崎で待っていた仲間が保安庁に電話したので観客が大勢見えた)調書

と

聞き取りは萩の港で作業中に終わる。三人も保安庁が来たが思ったより簡単だった。

8月22日 昨日はトラブルで遅くなり今朝はゆっくり 09.30 に蒲鉾で有名な仙崎の青海島(オオシマ)

港を出港して近場の 40 マイル先の長門市「フィッシャリーナむろつ」を目指す。油谷の東沖で一

本釣りをしている漁師に釣れた魚を売って貰う。洋上取引成功。大きな・いさき・9 匹で 2 千円刺身

と塩焼きでビールの売れ行き多し。明日はイヨイヨ潮待ちをして関門を抜け平家終焉の地を通り大分の姫島に向かう予定

8月23日 関門の潮止まり 06.00 に合わせて下関市豊浦町室津(長門市では無かった)フィッシャリーナでは船中で仮眠し深夜 02.45 に出港する。関門進入時は東流 4 ノットで追い潮、巖流島を左手に見て 06.15 に無事通過する・やっと太平洋側に出ました。これからは何回か来たコースです。まず今晚は姫島に寄り車海老を食べて少し休養します。

風が弱く暑い、本船が多くこれが当たり前なのでしょうが日本海ではあまり見かけなかったのでワッチに真剣。09.30 宇部港で一人下ろして姫島に向かう 二年振りの姫島に 14:00 入港。美味しい料理で有名な民宿「姫茶屋」にチェックイン。大歓迎されて鯛のシャブシャブ、鱸の塩窯、車海老の刺身とフライと塩焼き、と茹でタコ、とモー食べ切れない。明日は広島の大島海峡を目指す。



8月24日 ジャッキー日本一周もやっと瀬戸内海近くまで来ました。06.40 姫島を出港し快晴北の微風の中、広島県東能美島の西で大型なヨットハーバーがあると言う 沖野島を目指しています。周防灘から伊予灘に出て広島湾に向かい北上すると将に多島海です。島々の間の瀬戸は潮が早く、途中で連れになったパイオニア9は遅れて島影に消えて行きました。諸島(モロシマ)水道の逆潮を越えて沖野島マリーナに 17.15 入港。江田島と橋続きの綺麗な島です。明日は尾道の先の常石に行く予定。



音戸の瀬戸

8月25日昨夜はタクシーで江田島の寿司屋に行き寿司盛り合わせを頼む。鮭、鰻、なまり鰹、に鯛が少々 姫島との格差に唖然。沖野島マリーナはフィート約千円で山小屋のような宿泊施設も1部屋 8500円(ベット4)あり綺麗なヨットハーバーです。今度のクルージングも7月13日に葉山を

出て1月半近く経ち26日には小豆島の岡崎造船に入り化粧直しをする予定です。

最終レグ 小豆島から葉山は9月下旬頃となるでしょう。私、渡部は27日の葉山ふれあいクルーズに間に合うよう本日、岡山空港より帰宅の予定です。

葉山一函館一境港一小豆島と今回のクルージングの目的「日本一周、半時計回り」はほぼ目的の大半を終了する日を迎えました。私は尾道の保安庁前の棧橋に飛び降りバス、JR、JAL、京急と使い帰宅しました。ヨットは常石の境が浜マリーナに17時30分頃入港し、同経営系のベストビラホテルに宿泊しました。

8月26日は8時出港して塩飽諸島手前を備讃瀬戸航路に入り、17時小豆島の琴塚にある岡崎造船

に停泊しました。暫らく上架して化粧直して、葉山に戻ります。渡部の拙い記事を見て頂いた方、有難うございました。

ホワイト クレスト 渡部 拝